



鶴岡市議会議員〔無会派・産業建設常任委員会〕

田中ひろし 市政報告

2015
MAY

<連絡先> 事務所 〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール: officefon@gmail.com
TEL 0235-22-0068 FAX 0235-22-0098
議会事務局 〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所 2階
TEL 0235-25-2111 FAX 0235-24-9071

鶴岡市でも、ようやく2015年4月1日から「ふるさと納税」に本格参入します！

下の写真は、返礼品のほんの一部です。



5年前、鶴岡市議会2010年3月定例会での一般質問で取り上げた際には「大変厳しい経済雇用情勢の中、税金を納めてくださっている市民の皆様との均衡を保つという観点から、節度を持って感謝の気持ちをあらわすため、お礼状と観光パンフレット、それから市勢要覧等の送付といたしております」との答弁でした。

鶴岡らしいといえば鶴岡らしい姿勢だけれど、「ふるさと納税」は、寄附した人の居住地が損をする仕組みです。ぼーっとしている自治体はどんどん税収を減らし、その分が他の自治体に回る。ああ、失われた5年間。それでも、東京圏に全人口の3割弱が集中し、三大都市圏で全人口の5割を超える現状では、都会から田舎にカネを流す効果があると考えられます。

【ポイント制で大人気 ふるさと納税、自治体の知恵】の記事によれば、2014年度のふるさと納税No.1は、12億7884万円を集めた長崎県平戸市。人口は32,171人(wikiによる)なので、住民一人当たり39,751円。

ようやく鶴岡市も「ふるさと納税」本格参戦！

2位の佐賀県玄海町は9億3206万円だけれど、人口が5,968人なので、住民一人当りは156,176円。

更に3位の北海道上士幌町に至っては、人口4,924人で9億1098万円なので、驚愕の185,008円/人となります！

今年度の予算総額が82億円弱という上士幌町にとって、ふるさと納税がもたらした9億円のインパクトは計り知れません。

2014年の寄付額上位ベスト10を発表

順位	自治体名	寄付総額	件数
1	長崎県平戸市	12億7884万円	3万697件
2	佐賀県玄海町	9億3206万円	3万9150件
3	北海道上士幌町	9億1098万円	5万1695件
4	宮崎県綾町	8億3248万円	5万5141件
5	島根県浜田市	6億2170万円	3万8446件
6	鳥取県米子市	4億9511万円	4万2326件
7	山形県天童市	4億7538万円	3万9516件
8	佐賀県小城市	4億2822万円	1万6412件
9	宮崎県都城市	4億121万円	2万1336件
10	大阪府泉佐野市	3億8977万円	1万9135件

この5年間で、先行者利益は汲み尽くされています・・・今年度から本格的に取り組む鶴岡市は、周回遅れの自覚をもって、平戸市などのノウハウに学んでいくべきだと思います。全国の皆さん、魅力あふれる返礼品に加えて、加茂水族館のペア入場券も付いてきますので、よろしくお願ひします。

【今号目次】

- ・「ふるさと納税」本格参戦！
- ・3月定例会一般質問報告
- ・インターネットに関するアンケート
- ・視察報告～兵庫県川西市

定例会報告

平成27年3月定例会を振り返ります。

なお、鶴岡市議会ホームページから、本会議の映像や会議録をご覧ください。

→ <http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/gikai/>

1. 鶴岡冬まつりについて

「鶴岡冬まつり」では、日本海寒鱈まつり、大山新酒・酒蔵まつりなど多くの事業が行われ、冬期間のにぎわい創出に貢献している。今回は多くの事業の中から、鶴岡音楽祭と鶴岡市合唱祭の2項目について質問した。



＜鶴岡音楽祭＞

鶴岡音楽祭は今年で30回。初期には童謡、演歌、ロックなど様々な音楽を取り上げましたが、第10回目から市民の手づくりによる音楽祭になった。近年は空席が目立ち、「マンネリ」との声も聞かれる。市から冬まつり実行委員会に対する補助金は総額で744万7,000円。実行委員会から鶴岡音楽祭に

457万円を支出しており、事業費総額の約8割にあたる。市民の血税を有効に使うためにも、コンテンツを充実させていくことも必要だ。

【「雪の降るまちを」鶴岡冬まつり】と題している割に、名曲「雪の降るまちを」の存在感が薄いの

が現状である。鶴岡市と同様に【雪の降る街を音楽祭】を開催している北海道旭川市では、毎年プロの音楽家が出場する独唱コンクールを開催している。今年で14回目で、全国から出場者が集まっている。鶴岡市では合唱が盛んなので、合唱コンクールを開催してはどうか。たとえば新潟県新発田市では童謡「花嫁人形」の合唱コンクールが行なわれ、全国からのグループが参加している。独唱コンクールよりも出演者が多いので、宿泊その他、経済効果も期待できる。

また、雪が好きな台湾の方々のインバウンド観光を振興する観点でいえば、「雪の降るまちを」の台湾語バージョンを動画で発信するなど可能ではないか。

商工観光部長からは「現在は主に地域内に向けたPRだけだが、ホームページの開設、ふるさと会関係者など本市ゆかりの方々を通じてのPRは可能ではないか」「音楽祭は既に定着をしておりますので、仮にコンクールなどを行なうとしても、現在の音楽祭とは別のイベントとして実施すべきではないか」との答弁だった。

鶴岡音楽祭と合唱祭の活性化を
議員 鶴岡音楽祭と鶴岡市合唱祭への補助の現状は、合唱コンクールの開催など、市外への発信強化を含む活性化策は。
商工観光部長 今年度の市から冬まつり実行委員会への補助金は総額約745万円。その内、鶴岡音楽祭には約457万円、合唱祭には56万円が支出されており、各イベント予算の約8割を占めている。合唱コンクールを開催するとすれば、現在の音楽祭とは別の新たなイベントと



田中 宏
議員

◆テーマ

- 鶴岡冬まつりについて
 - 鶴岡音楽祭について
 - 鶴岡市合唱祭について
- 子ども達をネット依存やLINEの悪影響などから守る取り組みについて
 - 行政の果たすべき役割について
 - 家庭、保護者への啓発について

して実施すべきである。事業の担い手や継続性、意義、効果、既存事業との調整など勘案して判断したい。

子どもたちをネットやゲームの害から守る対策は

議員 市内小中学生のネット利用の現状と問題点、対策は。
教育長 26年4月の調査では、本市で1日2時間以上メールやネットをしている小学生は8%、中学生は31%。ネットにつながる機器を所有している中学生は85.9%。動画の視聴やゲーム、友人とのメッセージのやり取りなどで睡眠不足や学力低下に陥っている児童・生徒も少なくない。今年度、市内小中学校48校中41校でネットモラルなどの研修を実施した。教育委員会からも14校で延べ20回の講話を実施したほか、啓発パンフレットを全員に配布した。各校PTAが生徒会と連携して、自主的に家庭でのルールづくりに取り組むことを期待している。

つるおか市議会だより
平成27年3月定例会号



＜鶴岡市合唱祭＞

昭和 58 年から開催されており、今年で 31 回目。市から鶴岡市合唱連盟に 56 万円の事業費を支出しており、事業費総額の約 8 割にあたる。

今回出演したのは、旧鶴岡地域を拠点とする 6 つの合唱団と、東京から招いた声楽家、合唱団だけ。市内には、多くの中学校高校の合唱部や一般の合唱団があるというのに！ごく限られた市民だけがメリットを受ける現状を、速やかに改善すべきだ。教育部長の答弁では、「過去には市内の中学校や高等学校の合唱部を初め、地域の児童合唱団、他市町の合唱団体も参加しておりましたが、近年は同じような時期に行われる小編成の合唱コンクールに出場する中学生・高校生や一般の方がふえてきており、合唱祭には団体としては参加しにくくなってきております」と。時期を変えるなどの対策を打つべきだ。

1/31 に行われた新文化会館の管理運営ワークショップでも、地区対抗の合唱大会や市内全域から参加する合唱イベントなど、鶴岡の合唱が盛んな土地柄を生かした文化イベントが提案されていた。

2. 子ども達をネット依存やLINEの悪影響などから守る取り組みについて

先日、鶴岡市内の男子高校生が広島に住む女子高校生をネット経由で脅迫して逮捕されるという事件があり、大きな衝撃を受けた。ネットの利用時間が増えれば、睡眠不足、学力低下に直結しており、不登校や精神疾患にもつながる。

人間的に未成熟でトラブル解決能力というのをまだ育てていない子供たちを守るためには、PTAも教育委員会も一丸となってネット利用に関するルールや新しい常識を定め、粘り強く普及していく必要がある。

鶴岡市教育委員会で作成した「ネットに潜む危険、あなたのお子さんは大丈夫」というチラシは、保護者に必ずしも伝わっていない。粘り強い啓発を！

大阪府の寝屋川市では複数の中学校の生徒会執行部が集まって、それぞれの学校を超えた話し合いを行っている。姫路市でも高校の生徒会みずからルールづくりをしており、「夜 9 時までしか使ってはいけないが、でも、寝る前どうしても気になるのはしょうがないので、10 分間はチェック OK。

しかし返事は翌朝、学校でリアルに会って顔を合わせてから」など、本当に実践的なルールになっている。取り組みの成果自体よりも、取り組みの過程で子どもたち自身が感じる大切だとされている。中学生からの取り組みでは遅い。小学校時点での小・中学校リーダー交流会などの場も有効に活用してほしい。

教育長の答弁から。。。。

＜子どもたちのネット利用の現状＞

26 年 4 月に実施した全国学力・学習状況調査によれば、1 日 2 時間以上メールやインターネットをしている小学生が 8 %、中学生が 31 %。

平成 26 年度の後期定期調査によれば、ネットにつながる ICT 機器を所有している中学生の割合は 85.9 % と、前年度調査から約 6 % の増加。動画視聴が 7 割、ゲームや音楽鑑賞が 60 % 台後半、メールや SNS も 4 割の生徒が使用。

市内でも、動画の視聴やゲームにのめり込んだり、ベッドの中に通信機器を持ち込み、夜遅くまで友人とメッセージをやりとりしたりして、睡眠不足や学力低下に陥っている児童・生徒が少なからずいる。

＜鶴岡市の取り組み＞

今年度は市内全小・中学校 48 校中 41 校で警察や庄内教育事務所、専門の民間会社などから講師を招いて、ネットモラルや安心・安全なインターネットの利用の仕方についての研修を実施。教育委員会からも 14 校に延べ 20 回指導主事を派遣し、ネット利用の一番の問題であるネットの利用時間と健康や学力についての講話を実施した。小・中学生全員にいじめの未然防止を目的としたパンフレットを配付し、その中でネット利用に関する家庭のルールづくりを呼びかけた。

教育委員会としてルールや常識について定めるのではなく、生徒会や P T A の自主的な取り組みを支援し、全市的な取り組みへと機運を高めていくことが望ましい。市内でもノーメディアデーなどの取り組みを行っている学校が幾つか出てきている。羽黒中学校では生徒会が夜 9 時以降はネットを利用しないという呼びかけを行っている。

※次頁では、ホームページに寄せられた市民の皆さんの皆様の声を掲載します！

声

子どものインターネットに関するアンケート

鶴岡市内の小中学校に、鶴岡市教育委員会作成の【ネットにひそむ危険～あなたのお子さんは大丈夫!?】という「ちらし」が配布されたことを踏まえ、ホームページに寄せられた市民の皆さんの声を集めてみました。その一部をご紹介します。

Q. 鶴岡市内の小中学校でネット利用の危険性を訴えるチラシ【ネットにひそむ危険～あなたのお子さんは大丈夫!?】が配布されたはずですが、ちゃんと保護者さんに届いてますか？いじめ防止パンフに挟み込みだったので、気づきにくかったかも… A4 両面、内容は画像で添付した通りです。

一般質問で《子ども達をネット依存やLINEの悪影響などから守る取り組み》について取り上げます。ご意見やチラシへの感想 etc.、コメントやメッセージでお寄せ下さい！

▼我が家独自ルールですが・・・

- 1・平日は特別な用事がない限りパソコンの使用禁止。
 - 2・携帯の使用はリビングでのみ可。
 - 3・携帯の使用は 11:00 まで。その後は親が回収。
- 親が子供の友達、その親とも面識があるということも、ルールを守らせるうえで重要なポイントになってきます。(40代男性)

▼フィルタリングとかルール作りも大切ですが、見ようと思えばどうにかしてみる術を子供は見つけます。だからこそ、ネットは人を傷つけたり、自分が傷を負う凶器になる事を話しました。節度を守るのは、現実でもネットでも大切な事をくり返し、言い聞かせています。(40代女性)

▼小学校の母親委員会でも、親がわからないまま子どもの知識だけ進んでいるのが現状なので、親にもネットについての研修が必要であるという意見が出ていました。(小学生保護者・女性)

▼3DSでも、YouTubeで動画を見れるのでやだなーと思ってました。ISの動画など残酷な動画を見ている子もいるそうです。フィルタリングもかけられるようですが・・・(小学生保護者・女性)

▼睡眠に障害が出てくるケースは、携帯よりはパソコンのオンラインゲームが原因のことが多いような気がします。(高校教諭・女性)

▼ゲーム機からネットに繋がりたいからとコミセンに行ってそこで通信して遊んだりしてるのを娘も見てるので興味はあるみたいです。。。3DSとかは最初に設定して制限してます！(小学生保護者・女性)

▼単純に講習受けて試験を受けて合格した人がインターネットを利用できるように免許制度を作ったほうが良いのではないかと思います。保護者自身が理解してない家庭が圧倒的に多いですし、子供のうちに免許制になっていけば様々な問題を未然に防げるのではないのでしょうか。正しい情報と運用方法をきちんと学ぶ機会を与えることが最も効果的だと思います。(小学生保護者・男性)

家庭のルールをつくりましょう!!

犯罪やトラブルから子どもを守るには、日頃から家庭でのコミュニケーションをとり、子どもにインターネットの危険性を教えることと一緒に家庭のルールをつくる必要があります。

以下のことをお子さんが守っているかチェックしてみましょう!

- 接続するサイトやダウンロードするアプリは親に知らせる。
- 個人を特定される情報を書き込まない。
- 他人のパスワード・IDを勝手に使わない。
- 下着姿や裸の写真は撮らない、撮らせない。
- 利用料金や利用時間を守る。
- 困ったことがあれば、親や先生に相談する。
- ルールを守らない場合は利用をやめる。

子どものネット環境はどんどん拡大しています。携帯電話やスマートフォン以外にも、インターネットへの接続やアプリの利用が可能な携帯型ゲーム機や音楽プレイヤーなどたくさんあります。それぞれに対応するフィルタリングを設定し、子どもが利用するアプリなどを保護者が管理することが必要です。

**子どものネット利用について、
最良のフィルタリングは、親の見届けや声かけです。**

【ネットにひそむ危険～あなたのお子さんは大丈夫!!】チラシ

▼困った親がどの地域にも、どの学校にもいます。その対応策も、裏で考えていけないといけません。(小学生教諭・女性)

▼例えば道路の歩き方を教えるカモシカクラブのような、インターネットの歩き方を段階的に子供達に教えてくれる会があればいいなと思っています。(小学生保護者・女性)

▼ YouTube やツイッターは、いつの間にか覚えてしまいましたが、パスワードは必ず教えて置くように約束してるので、何を書き込んだか、何を見たか、時々チェックしています。
 友達との遊びのツールになっているので、完全な禁止にするのは、隠れてやられると困るので、注意しながらさせています。(小学生保護者・女性)

～ネットにひそむ危険～
あなたのお子さんは大丈夫!?

ストップ!

ネットいじめ ネット犯罪

全国で「ネットいじめ」のトラブルが急増しています。携帯電話やスマートフォン等、ネットに接続できる機器を子どもに与える家庭は、使用状況を把握するとともに、利用についての約束を決め、徹底させましょう。

ネットトラブルの事例 総務省インターネットトラブル事例集(Vol.3)より 事例①②③の留意点を引用

- ① SNSやブログなどによるいじめ
 SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)やブログ(自己紹介サイト)などで、身のまわりにおきた出来事を発信したり、友だちの書いた日記などにコメントを書き込んだりする子どもたちが増えています。
- ② なりすまし投稿による誹謗中傷
 SNSや掲示板などで、他人になりすまして誹謗中傷の書き込みをするなど「なりすまし投稿」によるトラブルが発生しています。
- ③ 動画サイトを用いたいじめ
 子どもたちの間で動画サイトの人気が高まっています。子どもでも手軽に動画を投稿することができるため、いじめの動画を投稿し、それがきっかけとなって、さらなる悪質な誹謗中傷やいじめが発生しています。

誹謗中傷の書き込みやいじめ以外にも
ネット利用にはこんな危険がひそんでいます

○ネット知り合った人に会うことで犯罪の被害にあう危険があります。

- ・出会い系サイトやゲームの交流サイトなど
- ワンクリック詐欺(架空請求詐欺)にあう危険があります。
- ・メールやHPのURLやクリックボタンなど
- 個人情報取得により加害者や被害者になる危険があります。
- ・本名、住所、電話番号、画像、動画、パスワード・IDなどの公表や他人の情報を無断で提供することなど

【ネットにひそむ危険～あなたのお子さんは大丈夫!】チラシ

▼子どもはまだ小2なので、通信機器には触らせていません。ゲームとして使うのはOKだけど。人間としてのコミュニケーション能力やある程度の善悪の判断とか、基礎力がつくまでは使わせないつもりです。高2になってからやっとスマホ解禁かな。(小学生保護者・男性)

- ▼一律に禁止とすると、ダメな理由。
- ① 守らせようとしなない親がいる。
 - ② 親に隠れて使う子供を把握できない。
 - ③ 禁止したことによる安心感から、学校も保護者も監視の目がゆるくなる。などの理由により、いざという時、困ったことが起きた時、規則を破っていたことを怒られるのが怖くて誰にも相談できない。親も学校に相談できなくなる。このように、深刻な状態になってから、発覚するのでは、困ります。(小学校教諭・女性)

※貴重なご意見、ありがとうございました。

視察報告 ～兵庫県川西市

- 日時：2015年1月26日
- 訪問先：兵庫県川西市
- 視察テーマ：シティプロモーション
- 視察対応者：合政策部行政経営室魅力創造課＝岡本敬子課長、薄波智香子主査
 中央北整備部＝地区整備課 北野啓介課長、中央北推進室 津賀治郎室長
 市民活動センター 兼 男女共同参画センター＝三井ハルコセンター長、小柳教子運営マネージャー
- 視察団：会派視察（無所属：田中宏1名）

川西市は昭和29年8月1日に川西町、多田村、東谷村が合併し、人口33741人の市として誕生。大阪や神戸に近い都市圏ながら、豊かな自然環境に恵まれた住宅都市として発展し、現在の人口は約16万人。2014年は市制60周年を記念した事業が数多く行われた。



◆シティプロモーションとは

市内外に誇れる多くの魅力を持ちながら、十分に発信できていないため、川西市としての認知度が低く、都市イメージが弱いとの問題意識。
 シティプロモーションは、市を持続的に発展させ、市民の満足感や幸福感を向上させることが目的。都市イメージを創り出し、長きに渡って市民に愛され、育まれていく都市ブランドにしていく継続的な一連の取り組みがシティプロモーションである。
 その担い手は「市民、地域団体、NPO、事業者、大学、行政など市内の主体だけでなく、川西市を応援してくれるすべての人たち」だと定義しており、様々な主体が連携してプロモーション活動を展開していくことを目指している。

◆アンケート調査

平成25年度、市民、近隣市町の住民、市職員、有識者にアンケートを実施した。

- ・「自然豊かな住宅都市」のイメージが定着している。
- ・市外住民の関心は特産の桃・いちじく・栗など、食に関するものが多い。
- ・転入者の8割が「住みやすい」と回答。近隣自治体を上回っている。
- ・在住中学生の7割近くが「いずれは川西市で暮らしたい」と回答。郷土愛の深さを物語る。

◆必要な取り組み

シティプロモーションに必要な取り組みは、行政がこれまで不得意だったことばかり。多様な主体による思い切った官民協働が必須である。

- ・広域的連携によるプロモーション
- ・スマホなどモバイルメディア、SNSなど新たな情報ツールを活かした展開
- ・トレンドに敏感で情報発信力が高い女性をターゲットにしたプロモーション
- ・ご当地グルメなど、地域産品や地域ブランドの活性化

◆参画と協働のまちづくり推進条例

より効果的で効率的な市民満足度の高い公共サービスを提供していくには、市民、自治会、コミュニティ、ボランティア、NPOなどが行政とともに、地域社会の目指すべき方向や果たすべき役割についての共通認識を持ち、適切な役割分担のもとで、それぞれの能力を最大限に発揮していくことが必要である。平成22年6月、「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」が制定され、10月に施行された。



◆かわにし宣隊レンジャーズ&ジャッカー軍

市民有志が集まった「かわにし魅力発信プロジェクトチーム」から生まれたチームの一つ。各種イベントに登場して盛り上げている他、YouTubeでも多数の動画を発信している。

たとえば、市の決算状況を掲載した2014年12月号「広報かわにし」では表紙から全編に登場し、堅苦しいイメージの決算について、親しみと関心が湧くよう工夫している。

◆結婚出産記念撮影コーナー

市民課の窓口のすぐ横に、記念撮影コーナーがあった。市のロゴとイメージキャラクターのパネルとその日の日付という簡単なものだが、結婚や出産という記念すべき日の思い出づくりに一役買うと思われる。SNSなどを通じてその写真が友人知人たちに広まれば、川西市のイメージアップにも効果がありそう。

◆「パブリックコメント実施中」コーナー

市役所1階の一角に、実施中のパブリックコメントをまとめて展示してあった。パブリックコメントは

市民が市政参加できる貴重な機会だが、知らないうちに応募期間が終わってしまった、という声も多い。鶴岡市でも取り入れるべきアイデアだと感じた。

◆「つながり」を作る仕掛け

2006年3月から市民活動センターで行われている「つながりカフェ」など、さまざまな個人や団体が出会い、つながるきっかけが提供されている。地域の公民館で少人数で開催されるイベントも、違った効果を生み出すと思われる。

◆市制60周年記念事業

市制60周年を機会に川西市の魅力を生市内外に発信するために、前述の「かわにし宣隊レンジャーズ&ジャッカー軍」の他にも3つのプロジェクトが進行している。川西市北部の里山でのピクニックを企画するチームや、60周年記念ソングを製作するチーム、現在と昔の写真を使って映像制作するチームなど、幅広い市民が参加できるアイデアにあふれている。鶴岡市の市制10周年記念事業でもかくありたい。

◆キセラ川西

かつて地場産業の工場が集積していた川西能勢口駅の北側のエリアの再開発プロジェクト。甲子園球場5.8個分＝22.3haという広大な土地に、防災機能を高めた公園を中心に、住宅・医療・集客施設などが並ぶ予定。再生可能エネルギーも導入し、「次世代型・複合都市」を目指しているとのこと。

◆まとめ

シティ・プロモーションは、行政だけで完結できるものではなく、多様な主体による思い切った官民協働が必須であることを痛感した。担い手は「市を応援してくれるすべての人たち」であり、「参画と協働のまちづくり推進条例」のような土台づくりも検討するべきであろう。



ブログ ツイッター フェイスブック
BLOG / twitter / Facebook での情報発信も!

<http://tanaka-tsuruoka.net/>
http://twitter.com/tanaka_hiroshi
<http://www.facebook.com/tanaka.officefon>